

# グループホーム えだくに

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域活動に参加することや、小学校への授業参観に行く、買い物に近くのスーパーへ出かれる等、地域で生活を行っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎朝、管理者、職員、入居者と共に唱和し、その理念に基づいた生活を行っている。地域に根ざした安心で楽しい生活ができるよう取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		共同空間の見やすい位置に掲示及び契約時の説明にて家族に対する取り組みなどをおこなっている。運営推進会議にて実践報告を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		毎日の散歩で声をかけあい近隣の方との交流は十分にもっている。時より近隣の方から野菜や果物の頂きものをする。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会への加入に加え、地域行事(リサイクル活動や敬老会、草取りやゴミ収集など)への参加や交流に努めている。施設内行事の夏祭りや、作品展など施設を開放して交流に努めている。

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	天気の良い日は必ず朝・夕散歩を行ったり、夏祭りや作品展で地域周辺の高齢者の生活支援の目標としている。散歩を利用して施設周辺のゴミ・空き缶ひろい等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の内容は、各職員に目を通してもらい改善点がある場合は、朝礼やミーティング等で話し合い改善できる様取り組み実行し、実際少しづつ質の向上が行えていると思う。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での生活状況の説明や取り組みについて話し合い、委員の方の意見や要望を聞き、サービス向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が取り組んで行う行事に参加したり質問や要望事項は、行政の窓口にお問い合わせや相談しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	人権や権利擁護に関する研修については必ず参加し、スタッフ全員に伝達講習をしている。また成年後見人制度については、裁判所に出向きその申請の方法やどういう方に必要なのかについて教えて頂いたりしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待については、等施設ではありえない。介護相談員の受入れも実施しており、管理者が施設内での虐待は禁止しているし、実際に虐待を行う職員などはいない。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に際しては前もって、契約書・重要事項説明書の説明を行って渡し、再度よく読んで頂き、理解してもらってから契約当日に疑問点などがあれば説明し、納得して頂いてから記名・押印して頂く。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設への不満・苦情に関しては、苦情ボックス等を設置すると共に、運営会議の議題にも取り上げ家族との意見交換や行政からの意見も取り入れ運営に反映させている。又、改善等がある場合は毎月のほなみ通信で行うようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のほなみ通信を発行し、入居者の暮らしぶりや翌月の行事などを紹介し、ご家族の参加等も呼びかけている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の不満や苦情を親身に聞く職員を配置している。又、介護相談員の受入れを行い、利用者の不満や要望を聞いて頂き、匿名にて施設に知らせて頂き、リアルタイムで運営に反映できるよう心がけている。また改善点はほなみ通信等でお知らせできるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングや施設運営会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け職員の意見も十分に反映した生活を努力している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>常時1～2人多くの職員を配置し、状況の変化にも柔軟に対応できるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職についてはやむを得ない個人の状況もあるが必要最小限に抑える努力をしている。</p>		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	働く意欲を持って面接に来られた方については、自己の権利の保証については最大限配慮している。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	人権教育、啓発活動については、全職員がその教育を受けられるよう勤務の日程を配慮して、研修等に参加している。人権学習や職員同士での学習会を設けている。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の能力に応じて研修の機会を確保している。研修後の伝達講習を行い、全員が同じ質で介護ができる。又、施設内での医療、介護の質の向上の為に勉強会を定期的に行っている。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修等で同業者との情報交換や時折、他事業所等に訪問する。そして、貴施設でも質の向上で必要な事は取り組んだり、取り入れたりする。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	定期的に食事会や行事の反省を含め職員相互の交流の場を作り、ストレスを軽減するための環境づくりに取り組んでいる。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年、年度初めに福岡県社会福祉協議会や各事業所が行っている研修等々に参加、スキルアップの研修を利用して頂き、各職員が仕事に意欲をもって働けるよう努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の家族が最初に相談に来られる事が多いが、家族の不安や悩みを理解し、利用者との面接を行う。面接においては、利用者自身の悩みや不安を受けとめ納得いくまで施設に相談にきて頂く。又、入居後も生活の様子を見に来て不安をなくすようにしてもらっている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の家族が最初に相談に来られる事が多いが、家族の不安や悩みを理解し、利用者との面接を行う。面接においては、利用者自身の悩みや不安を受けとめ納得いくまで施設に相談にきて頂く。又、入居後も生活の様子を見に来て不安をなくすようにしてもらっている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の希望や生活環境、利用者が持っている病気等を見極め、どのようなサービスが一番ベストかを考え対応している。その利用者の身体的、精神的状態把握について主治医と多く意見交換する。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一般的に相談に訪問される家族は病院を出なくては行けないとか独居で火事が心配。又は夜間の徘徊などの状況が多く、緊急の入居などを求められる場合が多い。今までどのような生活を行っていたのか、入院等で変化した事等を家族や関わった人々によく聞き参考とし、安心して頂ける様努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の幼少の頃や若い年代の時期を思い起こしてもらえ様、会話については配慮し利用者の趣味などを取り入れることも多く、利用者に学ぶことのできる機会を取り入れ一緒に生活を行っている。ち		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活や病気の経過について報告等も行っているが、家族が利用者と共に時間を過ごす時間を年間行事を通して行っている。施設に依存するのではなく、家族と施設が協力して利用者を支える態勢づくりに務めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、利用者の調整役となり、よりよい関係づくりの努力を行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のサークル仲間や近所の方、知人等の面会に際しての制限はない。しかし、宗教活動等々や物品などの販売に関しては基本的にお断りしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から入居者同士の会話に注意し支えあえる様見守り、支援を行っている。施設内での友人関係や会話友達にはスタッフも調整役となる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開かれた施設を常に念頭においているので、例えばサービス利用が終了しても遊びに来られた時、相談事などがあれば支援できるよう努めている。実際遊びに来られる家族や利用者がある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のほとんどは家に帰りたい願望が常にある。利用者がさみしい思いをしないよう、家族にお願いして面会や外出、外泊などを通して本人の意向に沿えるよう支援している。又、家族がいない方はスタッフが代替する。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで独居で生活してこられた方は思い出せない事が多い。又、ご家族も「知りません」と拒否されることもある。日々生活の場面、場面から見えて来る事から取り組んでいる。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	施設設立者が看護師である。アセスメント、疾患の理解、ADLの評価能力をきちんと行い主治医とも相談を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ全員が均等な質で利用者を介護できる様、疾患の理解、生活リハビリ、レクリエーション等々に至る詳細なミーティングを行っている。又、それに対しての研修も参加を行っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大きな計画は3ヶ月後の見直し、毎月、日々の介護計画ノートを作成しスタッフ全員が利用している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別介護計画ノート、申し送りノート、業務日誌を利用し、スタッフ全員の質の均等を行っている。均等の質で継続するがモットーである。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独でグループホームのみの施設である。しかし、車を利用して資料館散策。花見に出かける等を行ったり、その人の能力を利用して福祉センターへ温泉に入りいくなど、又、他科受診等も行い、在宅の自宅で生活するよりも多様で元気な生活を行えている。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月訪問されている介護相談員の方が民生委員も兼ねており、利用者の意向や不安等が聞かれた場合は、施設側に相談される。又地域のボランティアの方や消防、小学校にも協力を求め、利用者と共に活動参加ができる様努めている。		現在、警察の方と相談中、かなり遠い場所に交番があるので、定期的な巡回などの検討をお願いしている。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険の二重サービスは行えないので保険外でのサービスの利用については利用者、家族の希望があれば叶える努力やパイプ役を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに相談しても、介護保険課へ相談してくださいと言われてたり、相談しても対応はない。先日、介護相談員との意見交換会があり参加したがその時の主催者であるにもかかわらず質の向上やグループホーム全体に関わる話ではなく相談員さんの愚痴や人の悪口で終わってしまう。しかし、それに対しての向上的な意見や指導的立場とし		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と、緊急時の往診の対応ができる連携体制を整えている。又、緊急時は三次救命飯塚病院や市民病院等大きな医療施設でのシステムを整えている病院で対応してもらう。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医等が主催する研修に参加したり、専門医と連携をはかっている。受診の際、利用者の日常生活の状況を報告しながら各利用者に最適と思われる治療が提供されるよう努めている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業主が看護師であり、利用者の健康管理や医師への報告事項はおこたらない。又、介護職員にも毎日の申し送りに注意事項を伝え、適確に対応ができています。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	多くはその様に行い、又早ければ当日、または1.2週間程度でもどって来られる。その為の医師の連携は行っている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	職員全員で行っている。多くのご家族や利用者は、ここで最後までを希望されている。医師との連携を図っている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	行っている。家族、利用者が望む場合は看取りを行う。今までも何例もあり、スタッフの心構えやその都度利用者にあつた対応マニュアルが出来ている。主治医が往診にて看取ってくれる。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	希望があるのは特養や在宅へ移り住むケースがあつた。理由の多くは経済的な問題で立ち入れない場面が多い。特養や在宅の良い面やダメージについて説明をし、それぞれの地域包括やケアマネに連携を図っている。		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	十分守っている。個別を活かした生活を行っている。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の自己決定を尊重している。必ず本人がどうしたいか尋ね希望に添った支援をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添える様に声かけを行いながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容師を利用している。カットは入居者の希望に合わせて行っている。又、希望者は馴染みの美容院や理髪店に外出する。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる力を支援している。食事づくりに際して配膳や後片付けなどを職員と一緒にしている。食器洗いや乾燥まで手伝える利用者もいる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医と相談し、状況に合わせて楽しめるよう支援している。ビールを飲酒する利用者もいる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しトイレ誘導や見守り、声かけ、介助を行っている。オムツの中での排泄がないよう細心の注意をはらっている。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回行っている。曜日や時間帯は希望があれば変更も行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	行っている。時折夜間徘徊もあるがしばらくすると入眠される。お茶や牛乳などの暖かい飲み物等の配慮も行う。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや、洗濯たたみ、食器洗い、テーブル拭き、新聞折り等の役割を持ってもらい日々過ごしている。最近では調理に参加する利用者も2～3名いる。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はなくなった、盗られたなどが多く発生する。又、認知症で「貸した」「借りてない」等のトラブルが多く発生する。その為、ご家族が持ち帰ることが多い。しかし、本人自身、小額のお小遣いは持っている人もいる。計算はほとんどできない。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩を行い近所の外出を支援している。又、徘徊があり外へ外出した方が安心して人にはスタッフがひとりついていく。又、近所のスーパーへ食料品や日用品の買出し、大型スーパーへ買い物や衣料品店へ季節の衣類を見に行く等、家で生活を行うより行動は広い。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に外出や外食を行っている。ひな祭り、花見、チューリップフェスティバル、大宰府菖蒲見学等々、季節ごとに出かける機会を設けている。又、月に1回程度の買い物ツアー等も行っている。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由である。手紙や絵葉書なども時折出している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	挨拶、会話を積極的に行い気軽に訪問できる環境作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない、拘束をしないという事は管理者の理念である。中には離設行為のある入居者もいるが職員がつきそいでできるだけ鍵かけは行わない。どこまでもついて行く様にしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々、細心の注意を行っている。現在は離設等はない。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一定の場所に保管し管理している。危険を防ぐ取り組みを行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々ミーティングで利用者一人ひとり目配り気配りを行っている。投薬については「月 日昼、 様ですね」の確認をとり服薬してもらう。火災は防火訓練を主に火事について重々注意をする。ガスの元栓を締める等、声を出して確認を行う。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者が急変したり事故等があった時の緊急対応については、日々毎朝の申し送りやミーティング等で行っている。主治医、管理者とはいつでも連絡がとれる体制をとっている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は年2回行っている。又、近隣のお店や住民の皆さんにもお願いをし町内会の方の協力が得られるよう働きかけている。運営会議や、町内会、介護相談員を利用している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクの説明については入居の際に説明を管理者が行い、利用者の状況によっては家族と話合う。家族の希望する対応を尋ね希望通りに支援する。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	速やかに看護師、主治医に報告し職員も情報を共有して対応し、完治するまでは特に処置、対応、観察を密にする。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護師の指示のもと、服薬については利用者の情報を家族の同意を得て職員間で共有している。副作用や用法などは薬の説明書を病院から発行してもらったり薬の本を購入して確認している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食は繊維の多い野菜やイモ類、牛乳を初め水分を多く摂取する。又、体操などを取り入れ午前・午後の散歩やレクレーションなどで体を動かす工夫をする。便秘の入居者には最終便を把握し、医師に相談して便秘薬を処方してもらう。腹部マッサージも個別に行う。		

## グループホーム えだくに

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後、見守り、介助により口腔ケアを行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の病気や体調にあわせ主治医ともよく相談し、一日の水分の摂取量をバランスよく摂取できるよう努めている。管理栄養士が職員にいる。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各症状に応じた対応が取り決められている。日常的には手洗い、うがいの徹底を行っている。感染マニュアルを参考の事		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の使用には細心の注意を行っている。又、サルモネラ菌やノロウイルス等のテレビ、新聞のニュースは共有し注意をはらっている。食事をつくる際は手洗いを欠かさずおこなっている。又、手や指に傷のあるものはたずさわらないようにしている。管理者、職員全員が衛生管理につとめ、調理器具についても同様である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花を置くなどして、閉鎖的なイメージを払拭している。又、近隣のボランティアの方に散歩などに参加して頂いたりしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者の皆さんと出かけた時の写真や一緒に楽しんだ写真、手作りの作品などを飾り、視線の位置にあわせ季節の花を植えたり工夫している。又、照明は目に優しい色を取り入れている。		

## グループホーム えだくに

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には大きなダイニングテーブルがあり、ソファなどをおいてゆっくり過ごせるように工夫している。冬は暖色系、夏は涼感色を工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室にある物は使い慣れたものや家族が「母の日」「敬老の日」などにプレゼントされたものが多い。居心地の良い空間がもてるよう工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝及び定期的に換気を行っている。又、居室の布団や毛布、パジャマ等は、天気の良い日は必ず天日干しを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間、トイレ、手すりが設置されており、歩行器・車イスなども使用して自立した生活が送れるよう工夫している。寝たきりにはしない、させない努力をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	なるべく利用者が自分でできる事を妨げない、現在できている事を持続出来る様、スタッフとも話し合いながら自立した生活ができる工夫を行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺や、中庭には緑を多く取り入れ安らぎを感じる空間を工夫している。		

グループホーム えだくに

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム えだくに

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

慣れ親しんだ地域での生活、安心して安全で楽しく元気に生活するをモットーにしている。夜眠って、朝起きてパジャマから日常着に着替えて、洗面、食事、口腔ケア、散歩、本当に自分の父、母、祖父母だったらどうしてあげたい「一日今日も元気、食事もおいしく生活できた。仏様に感謝」と自分の家族だったらそう言って一日の終わりは仏様に参ると思います。家庭と同様にそういう元気で楽しい生活、死ぬまで現役な生活。又そうでない人にはその方にあった規則正しい生活を目指していきます。